

## 「北海道・東北花紀行」

○ 令和5年（2023年）5月31日（水） 晴れ

今年も新潟港からフェリーで小樽へ

今年も昨年と同じく、まだ夜の明けぬ早朝3時半に家を出た。何と昨年と同じく今年も霧雨が降っている。圏央道は物流のトラックがいっぱいで、夜の明けぬ道は暗い上に雨で道が濡れていて危険なので、トラックの流れに任せて走行車線をゆっくり走った。鶴ヶ島JCを新潟方面へ関越道に入ると物流トラックは姿を消し、道はガラガラになった。夜も明けて雨も止んだのでマイペースでのんびり走れるようになった。そうなると朝早く出たので眠気が襲ってくる。高坂SA, 駒寄SAで休憩して、横になって短時間仮眠をとった。

関越トンネルを抜けると湯沢あたりから天気が良くなり、北陸道では快晴、気温が19℃。窓をいっぱい明けて涼しい風に当たりながら時速 80km位で安全走行。9時10分に新潟亀田ICを出て新潟港フェリーターミナルへ向かった。



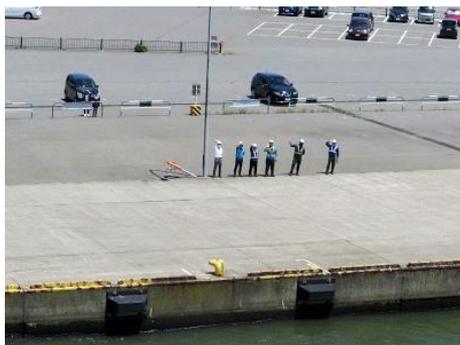
途中で買い物などをして9時40分にフェリーターミナルに到着し、札幌行き乗船待ち車列に並んだ。行楽シーズンでは無い平日なので乗客は少なそうで、先頭から10台目くらいだった。乗船手続きを済ませ、レストランで朝食(昼食?)を摂り、乗船待ち。

11時10分乗船開始。船はアザレア、部屋はステートAツイン・窓なし 5005室。



例によってすぐに風呂へ。去年は風呂が満員だったが今年はガラガラすいていて、ゆっくりのんびり入浴して今朝からのドライブの疲れを癒した。

定刻の12時に銅鑼の音とともに、船は静かに岸壁を離れた。



デッキに出て毎回恒例のサッポロクラシックビールを飲みながら、岸壁で手を振って見送ってくれているフェリー社員の方々に挨拶をし、離れ行く新潟の街を眺めている。



海は穏やか、快晴の空の下、船は青い鏡のように静かな日本海に白い航跡を残しながら小樽を目指して北上する。

あとは明朝小樽に着くまで海の上。

ロビーの窓辺で日記を書いたり、明日からの計画を確認したり。

7時にレストランで夕食を摂り、9時に部屋で横になったら、今日の車の疲れと生ビールのほろ酔いが重なって、眠りの底へ落ちて行った。

こうして 無事に今回の「北海道・東北花紀行」の幕が上げられた。